

CONTENTS

大阪消防 5

表紙：山岳救助想定訓練中の航空隊

01：コンテンツ／災害概況

02：特集 令和5年度 消防局職場活性化
推進事例発表会

08：ケイボウタイムズ

10：No more!事故～撲滅への道～

11：2025年大阪・関西万博

12：Just Do It！

15：消防漢字ガール

16：コマンドアイ

18：震災対策一丁目一番地

20：実録!!調査鑑識

22：救急いろは

24：We are Rookies！

26：消防職員意見発表会

27：今月の推しの一枚

28：大阪の消防NEWS

30：市民表彰／救急安心センターおおさかだより

31：落語DE火の用心

32：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより

33：健康ダイアリー

34：Weave the past, Weave the future

36：【職務】建築基準法の改正に伴う、屋内消
火栓設置に関する基準の改正について

38：九条みなみの昇任試験問題研究所

39：親睦会だより

40：アニマル環状線／編集後記

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
3月中件数	1	2	20	31	54	2	0	0	2	58
令和6年 3月末累計	3	4	47	99	153	13	0	1	10	177
令和5年 3月末累計	6	8	40	103	157	10	0	1	21	189
累計比較	▲3	▲4	7	▲4	▲4	3	0	0	▲11	▲12

◎救急概況

	救急出場
3月中件数 (概数)	21,780
令和6年 3月末累計	66,319
令和5年 3月末累計	60,724
累計比較	5,595

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他の 消防活動
令和6年 3月末累計	1,096	310	0	257
令和5年 3月末累計	1,040	289	0	316
累計比較	56	21	0	▲59

申請手続きにQRカードを導入

こうした問題を改善するために浪速消防署では二次元コードを記載した適合通知書受付カード（QR カード）を導入しました。

交付申請手続きの流れは次の通りです。交付申請受理時に専用管理簿で番号を発行し、申請書類を専用保管場所に保管します。検査時には受付ナンバーを記載したカードを手交し、交付準備完了後に、ホームページ上へ受付ナンバーを掲載します。ホームページへは管理簿より情報が自動反映されるため、人為的ミスが発生しない仕組みとなっています。

申請者は QR カード上の二次元コードを読み込み、現在の進捗状況を確認後、交付準備が完了していれば問い合わせすることなく来庁し、適合通知書を受け取ることができます。



交付申請専用管理簿

市民ファーストへの第一歩

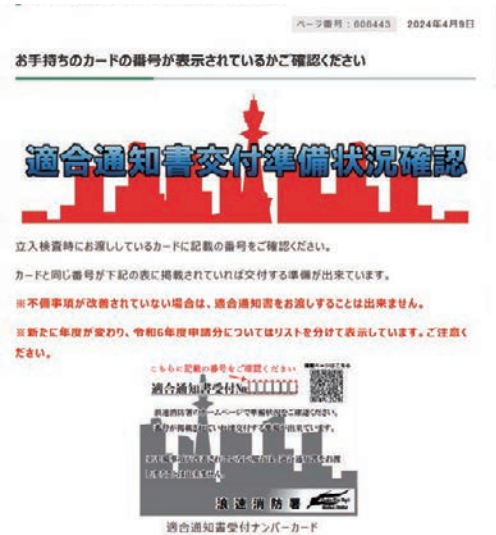
浪速消防署では、このカードを導入することで様々な効果が生まれました。まず、民泊の問い合わせ数が激減しました。次に、申請者の待ち時間が短縮され、市民サービスの向上に繋がりました。また、書類の管理を専用保管場所で行うという職員間における共有認識をもつことで進捗管理が容易となりました。さらに浪速消防署ホームページの閲覧数向上にもつながったことで、消防署からの啓発について、市民の方が関心や興味を持っていたり機会を提供することができました。

このように消防を取り巻く社会環境の変化に的確に対応するためには、行政資源の適切な利用による、消防行政サービスの向上と署員の業務効率化が求められます。現在は適合通知書手交時のみの対応ですが、このシステムは他の届出や申請においても、活用できるものです。

各分野においてこのシステムを導入することで、これまで以上の業務負担改善や市民サービス向上に繋がるはず。まずは消防吏員一人一人がさらなる市民ファーストを目指して第一歩を踏み出してみませんか。



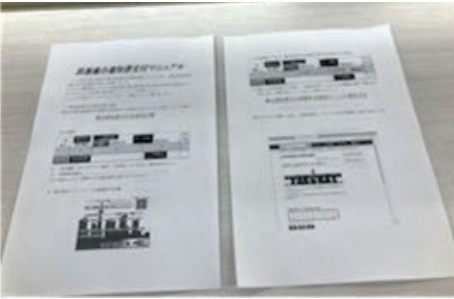
QRカード



準備完了番号一覧（令和6年4月9日現在）

令和5年度申請分				
66	92	109	124	125
172	188	189	202	208
210	218	219	233	238
242	244	246	255	

消防法令適合通知書交付準備状況確認画面
（浪速消防署HPより）



消防法令適合通知書交付マニュアル

特集 令和5年度 消防局職場活性化推進事例発表会

令和5年11月15日に消防局職場活性化推進事例発表会が開催されました。エントリーした153件の事例の中から選出された8事例についての発表が行われました。

こちらのコーナーでは、それぞれの発表の概要についてご紹介します。また、発表内容については、QRコードから動画でもご覧いただけます。



最優秀賞

交付準備の完了を即座に確認 ～ 市民ファーストを目指して～

浪速消防署 チームQR



交付申請増加により生じた問題

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が第5類に引き下げられ、全国的に経済活動や日常生活が回復しつつあります。大阪市内も以前と同様に活気を取り戻し、2025年に開催される大阪・関西万博に向けて、市内全体が大きな過渡期を迎えています。

浪速区にも国外からの観光客が急増し、国際色豊かな街となっています。また、浪速区にはホテルや民泊といった宿泊施設も多く存在しているため、地域や行政機関にも大きな影響があり、消防行政も例外ではありません。

このような変化の中で、ホテルや民泊を営業するために必要不可欠な書類である、消防法令適合通知書の交付申請が激増しています。

消防署は、この申請に基づいて書類審査や検査を行い、問題がなければ、消防法令適合通知書を手交します。民泊に関する電話での問い合わせや相談が以前より増加したため、消防法令適合通知書の申請数が増加したことで、大阪市内の4分の1以上を占めている浪速消防署では、申請者を長時間待たせてしまう、担当職員の負担が増加する等の問題が生じました。



浪速消防署 チームQRのメンバー

優秀賞

みんなの悩みを「マルっと」解決！設備活用訓練編／「続」現場活動編

北消防署 Kita Super Rescue Team



大規模高層建築物の設備活用へ

「高層建物で火災があったとき、設備の使い方はわかりますか？」

大阪市内(特に北署管内)には多数の大規模高層建築物がありますが、北署内には、「実際に設備を活用した火災対応をしたことがない職員」が採用20年を超える職員のなかにも相当数いました。そこで令和5年6月に15日間に渡って行われた、大阪マルビル解体前消防訓練を契機に、大都会キタエリアを管轄する我々が設備活用の経験値を上げる訓練をみっちりやろうや！と、署員の要望にマッチした訓練を計画し、実現することができました。

大阪マルビルの訓練が終了した7月、大阪市内ではタワーマンションの火災出場が2件ありました。その際、出場途上から各隊に260MHz無線で非常用E Vの活用を促しました。現場到着後は、防災センターでの情報収集、非常用E Vの活用、連結送水管でのブースターポンプ起動依頼など、まさに訓練どおりの災害対応を行うことができました。訓練やってほんまによかった！！けど・・・



北消防署 Kita Super Rescue Teamのメンバー

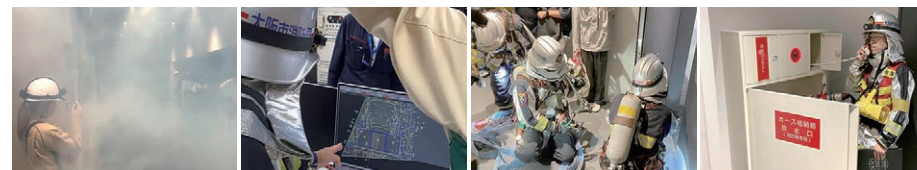
解体建物は当然のことながら、なくなってしまいます。さらに、解体建物の訓練は不定期に行われるため、経験値を維持することの難しさに悩んでいました。そんな中、予防担当から「新規対象物で訓練せーへん？」と提案があり、「それや！」と、今回、皆様に発表できる取組へと、繋がっていきました。

新規対象物での訓練は、解体建物で実施できる「扉を破壊し、実際に放水する訓練」とは違い、「汚せない、壊せない」という制約がありました。しかし、シューズカバーを着け、手袋は設備操作をするときだけ外し、比較的キレイなホースを延長することで、最新の設備を現場の順を追って操作できるようになるという訓練の目標は十分達成できました。

各署の皆様におススメしたい訓練内容のため、ご紹介させていただきます。

新規対象物における「設備活用訓練！」

- ① 煙霧機を使用し、自火報を発報させて、訓練開始。
- ② 先着隊は防災センターに向かい、総合操作盤を活用して出火場所を特定し、ブースターポンプを起動依頼。排煙設備を作動させ、放送設備で活動隊に周知。
- ③ 後着隊は非常用E Vで出火階直下に向かい、ホース延長の後、出火室を制圧。
- ④ 第一指揮班が出火階の付室を活動拠点として前進指揮を実施。



① 煙霧機で煙を充満 ② 防災センターで情報収集 ③ 付室からホース延長 ④ 第一指揮班の前進指揮

スプリンクラーが作動している想定で、制御弁の閉鎖までやると、なお良し！

新規対象物の設備は、最新で機能性も高い反面、活用できなければ困難な活動となることは明白です。今後ますます発展を遂げる大阪。我々職員の工夫次第で、設備を活用した警防訓練を継続して行うことは可能です。予防担当や近隣署とも連携し、この取組が大阪市全域に広まればと願うばかりです。

優秀賞

PR可搬式ポンプ庫

西消防署 TEAM地域



可搬式ポンプ庫が抱える問題

西消防署の管内には可搬式ポンプ庫設置箇所が26箇所あります。有事の際に市民の方々が管内の可搬式ポンプを支障なく使えるように毎月巡回し、点検整備を行うことも職員の大事な仕事の1つです。その可搬式ポンプ庫について、西消防署には長年頭を悩まされている問題がありました。

それは、ポンプ庫の「落書き」と「破損」です。

管内のポンプ庫には、落書きが目立つものや、ボールの的となって破損しているものがあり、清掃と修繕に時間と手間を費やすことが大きな負担となっていました。

私たちは、このような状況の原因として、いざというときに使用する市民の方々が、ポンプ庫が何の格納庫かわからず、重要性を理解出来ないからなのではないか、との考えに至りました。

ならば、「ポンプ庫を目立たせて市民にPRしよう！」と思い立ち、地域の子供たちの図画をポンプ庫に掲出する計画を立ち上げました。



西消防署TEAM地域のメンバー



「落書き」と「破損」の様子

みんなの可搬式ポンプ庫へ

掲出する図画を集めるために、地域担当の職員は区内の保育園、幼稚園へ働きかけ、予防担当の職員は毎年募集する小学生の防火図画をポンプ庫に掲出できるように学校担当者と調整しました。集まった図画は一枚一枚写真撮影した後、データ化。屋外に掲出できるように耐水性のA4ラベルシールにプリントし、雨でも簡単ににじまないように工夫しました。こうして完成したプリントシールをポンプ庫に貼り付け、強度を高めるためにニススプレーを吹き付けて仕上げました。こうして、地域の子供達の力作に彩られた可搬式ポンプ庫が完成しました。



完成したPR可搬式ポンプ庫

完成後、早速、協力いただいた先生方にお伝えしたところ、たくさんのメールや電話をいただきました。その中には、「屋外活動の際にポンプ庫を見させていただきました。子供たちも自分の絵が掲出されて、とても喜んでいました！」や「小学生図画の展示も期間が短いのが毎年残念だったが、長い期間掲示されるのは嬉しいです。」など、想像以上の反響がありました。

地域住民の方々からも好評で、「孫の作品が展示されてうれしい」「防火図画が話のきっかけになる」との声もいただきました。

生まれ変わったポンプ庫は、一目で可搬式ポンプ庫だと認識できるのはもちろんのこと、市民からの知名度も向上し、落書きをされたり、ボールをぶつけられたりということもなくなりました。

今後の課題は耐水性プリントシールを1年掲示した後のプリントシールの耐性です。当初は耐性の面からプリントシールの保護シートの購入を検討しましたが、コスト面で折り合わず実現できませんでした。1年後の検証結果によっては、現在の方法から改善を検討する必要があります。今回は大きさをA4サイズで統一しましたが、見やすいように大きくプリントする等、バリエーションを加える方法も検討中です。

今後は防災マップの掲示等、有事の際に必要な情報を掲載する取組も検討しています。可搬式ポンプ庫が、地域の拠り所になることを目指して、これからも活動を続けていきます。



PR可搬式ポンプ庫完成後の様子

消防+警察⇒安全安心なまち



北消防署 予防担当査察チーム

階段・廊下等の避難管理違反は、すぐに違反が繰り返されてしまうため、適正な避難管理が行われるよう、管内の警察署と連携し、夜間帯に合同立入検査を実施。共同で広報チラシの作成を行い、『安全・安心なまち』に向けて取り組んだ事例。



北消防署
予防担当査察
チームのメンバー



消防署と警察署の
合同立入検査

官民連携により災害対応力の強化を目指す！



西淀川消防署 防災を学んで未来につなぐ

地域防災力向上を目的とした取組。管内に本社を構える江崎グリコ（株）様と共同で、防災イベントを開催。家族防災会議と銘打ったブースでは、災害時の連絡手段や避難場所、備蓄や防災グッズについて家族で話し合ってもらうなど、二日間の参加者は計1,000人以上。ほぼすべての参加者から、地域防災意識が向上したとの回答を得た事例。



防災を学んで未来につなぐ
のメンバー



イベントの様子

みんな知ってる?! 消防NEWS



福島消防署 みんな知ってる?! プロジェクト

市民の方へ向けて、黒板に手書きで作成している、福島消防署NEWS。担当者は試行錯誤しながら、当初は高齢者向けに情報を発信。



みんな
知ってる?!
プロジェクト
のメンバー



福島消防署
NEWS作成の
様子

しかし、園児からの反応が良かったことから、イラストを描くようにしたところ、お褒めの言葉が多く届くようになり、今では2つのテーマとカラフルなイラストを用い、幅広い世代に楽しみながら知識を増やしてもらえるよう発信を続けている。

エアホースラインによる水難救助

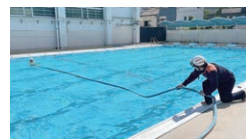


東住吉消防署 東住吉 北田辺 1部

困難を要することが多い立坑内の酸欠事故や水難事故の救助に資器材と安価な物品を組み合わせる新しい救助方法の考案に取り組んだ事例。空気呼吸器と40mmホースを塩ビ管等で繋ぎ、立坑にオス金具を投入し空気を送る方法やオス金具に塩ビ管のcockを装着してホースを膨らませ、浮き袋にして水難救助に使用する方法を考案した。



東住吉 北田辺1部
のメンバー



救助のイメージ

小さな気づきから大きな改善へ

業務改善応援室

昨年度は過去最多となる153件のエントリーをいただきました。このエントリー数はひとえに皆様の業務改善に対する前向きな姿勢とご協力によって達成することができたものです。最優秀・優秀・特別審査員賞に選ばれた事例はもちろん、エントリーされた全ての事例が業務改善への熱意溢れる事例ばかりであり、担当者として嬉しい限りです。皆様の警防活動中や業務中に見つけた小さな気づきが大きな改善となる可能性があります。今年度もどしどし熱い応募をお待ちしています！



消防局業務改善応援室
5代目室長 宮武 諒成

特別審査員賞

本日の職員の対応はいかがでしたか？



此花消防署 接遇力向上委員会

新しい此花消防署のリーダーズ、万博担当の伊藤です。令和5年度に此花消防署で行った取組、『本日の職員の対応はいかがでしたか？』を紹介します！

自分たちの接遇を見直してみる

コロナ禍では、「ソーシャルディスタンス」などの言葉も生まれ、人と人との触れあい方に多くの制限がありました。さらに、昨今は行政手続きのオンライン化なども進み、今後、市民や事業所の皆さまと私たちが対面で接することは、ますます少なくなっていくのかもしれませんが。このような背景から、私たちが対面でお話させていただくこと、その際の私たちの「接遇」に、今以上の「価値」が求められると私たちは考えました。そこで、まず私たち職員が市民の皆様にとどのように映っているのか、また、市民の皆様が感じている私たちの接遇への印象、私たちへのもっとこうしてほしいといった意見をどうすれば把握できるのかをチームのメンバーで検討し、次のような取組を行うこととしました。

職員の対応を評価していただくマグネットボードを来庁者の大半の方が利用されるエレベーター内に設置しました。任意ではありますが、エレベーターを利用中のわずかな時間で簡単に評価いただけるものを目指し、評価の内容は「ばっちり」・「ふつう」・「ざんねん」の3段階としました。毎日の集計結果は全署員にフィードバック。7月から始めた取組結果は集計結果表（※1）のようになりました。

集計結果から得られたもの

「ばっちり」がたくさん並んだ日は明日も丁寧な接遇を心がけようと思うのはもちろんのこと、この結果を話題に職員間の会話もはずみ事務所に活気が生まれます。「ざんねん」がついた日は、振り返りを行い、原因究明に努めました。

表情・挨拶・身だしなみ・態度・話し方は接遇の5原則と言われています。接遇が「ばっちり」であれば、その姿を通して「この消防署は信用できる。」と感じていただけるでしょう。この取組の結果には、日勤の職員だけではなく、警防担当職員も含め、来庁者が目にする全署員の身だしなみや態度、挨拶も大きく影響します。今回の取組を通じて、今まで何気なく行っていた市民対応も、私たちが信頼していただくための貴重な機会であるということに気づきました。この取組をきっかけに日勤職員と警防担当職員、1部員2部員の垣根を越えた団結力が生まれ、各担当業務においても連携が深まったようにも感じます。また、大阪消防の誌面に掲載するのはとても恥ずかしいことですが、昨今、当局では職員の不祥事案が後を絶たず、局内は危機的状況にあります。今回の此花消防署の取組は、「市民からの信頼」を取り戻すための取組でもあるのです。

最近では取組内容をアップデートし、より詳細に来庁者の皆様のご意見を伺えるよう、行政オンラインシステムを活用したアンケートも行い、アンケートカードによるご案内をしています。

今回ご紹介させていただいた此花消防署の取組『本日の職員の対応はいかがでしたか？』は、どの所属でも今すぐに実施できます。取組を実施することで、接遇力向上の成果が目に見えて分かりますし、組織のイメージアップ、職員のモチベーションアップにも効果あります。

さあ、みなさん、消防局一丸となって、市民からの信頼を取り戻しましょう！



此花消防署 接遇力向上委員会
のメンバー



マグネットボード

マグネットボード集計結果 ※1

月別 評価	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
ばっちり	95%	97.3%	96.4%	100%	98.7%	97.9%	100%
ふつう	0%	2.7%	1.8%	0%	1.3%	2.1%	0%
ざんねん	5%	0%	1.8%	0%	0%	0%	0%



アンケートカード見本

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第2回 航空救助における安全管理

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
新連載「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

航空救助の現場で求められる 「高度な安全管理意識」

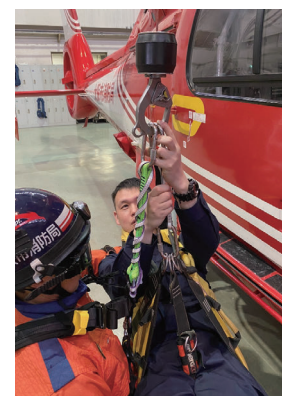
皆さんは、災害現場に1人で立ち向かう状況を想像したことがあるでしょうか？ 航空救助事案では、ヘリコプターからホイストで降下した際、要救助者と2人きりになることもあり、実動隊員として救助にあたりながら現場の最高責任者でもあるという、誰にも頼れない厳しいケースもあり得ます。そのよう

な状況下で求められるのが、救助を円滑に進め、事故なく任務を遂行する「高度な安全管理意識」です。

■不測の事態に備えること

ヘリでの救出活動においては、ローター音とダウンウォッシュの騒音下のため、声での意思疎通はほぼ不可能となります。そのため、吊り上げ前に、この後どう救出されるのかについて、要救助者への丁寧な説明が必要になります。

他都市の事案ですが、防災ヘリでの救出活動中、要救助者がカラビナに指を挟んで負傷した事故も報告されています。意識のある要救助者をエバックハーネスで吊り上げた直後に要救助者の体勢が若干後傾となり、怖くなった



救助時に要救助者の指がカラビナに挟まってしまった状況

要救助者があわてて目の前のカラビナを掴み、指を挟んでしまったというものです。

■高所ならではのヒヤリハット

航空救助では地上での災害現場と比較してはるかに高所での活動となるため、ヘリからペン1本を落下させるだけで、地上では重大な事故につながります。過去には、要救助者をホイストで吊り上げる際に、要救助者のポケット内のモバイルバッテリーが落下しそうになったという事案も報告されています。

この他にも、ダウンウォッシュの暴風によって立木の枝が折れて落下し、地上の消防隊が負傷した事案も発生しています。このような事故を防ぐために、現地消防隊との連携も欠かせません。

ホイストによる吊り上げ時の点検

航空救助という特殊環境下では、地上での現場活動以上に安全管理意識が求められます。例えば、ヘリでの活動は極めてリスクの高い

での準備を整えて、後は救出を待つという状態にしておくことです。

広い意味で捉えたい「0次点検」

一般的な0次点検について述べましたが、要救助者に対する救助前の説明や、現地消防隊への活動方針の伝達など、全ての段取りを含むのが、広い意味での0次点検の概念だといえます。そしてこのことは、陸上の災害にも当てはまるものであると考えます。隊員への活動方針の周知、任務指定、救出資器材の設定状況の再確認など、これら全ては0次点検の概念に含まれるものです。

点検の回数が多いと思われるかもしれませんが、航空救助では、これだけ点検の手順を踏むことにより、徹底した安全管理体制を構築しています。一つのミスが重大な事故につながることを肝に銘じて、小さなミスを見つける目を養うために行うのが、日々の訓練でもあります。航空救助の0次点検という概念を訓練に取り入れることが、みなさんの今後の活動の一助になることを願っています。



このままヘリコプターで救出します！
大丈夫です、安心してください。



カラビナよし、安全環よし！

フックよし！

1次点検



バランスよし！

再度点検、カラビナよし、
安全環よし！

2次点検



ヘリが近づいてきたら
ゴーグルを着装し、ダウン
ウォッシュに気を付けて
ください。

0次点検

◆0次点検

0次点検とは1次点検前に行うもので、要救助者の救出資器材のカラビナを、ホイストフックにかけるまでに行う全ての点検を指します。例えば担架のベルトの緩み、カラビナ

の状況、誘導ロープの状況などを確認し、全

◆2次点検

2次点検では、1次点検後のホイストフックとつながった要救助者を吊り上げ、ホイストケーブルにテンションがかかり、要救助者が若干浮いた状態でバランスを確認し、1次点検と同様に再度各カラビナの確認を行います。

◆1次点検

1次点検では、要救助者に使用する救出資器材のカラビナと自身のカラビナをホイストフックにかけ、カラビナの安全環が緩んでいないか、各カラビナが反転していないか、ねじれが生じていないか等を確認します。

活動となるため、非常にシビアなルールに基づいた点検を実施します。ここでは、航空救助隊員がホイストで要救助者を吊り上げる際の「1次点検」「2次点検」「0次点検」をご紹介します。